



少子化が止まらない！

こどもの数、30年連続減少で過去最低に！

総務省統計局では、5月5日の「こどもの日」にちなんで、平成23年4月1日現在におけるこどもの数（15歳未満人口。以下同じ）を推計しました。

平成23年4月1日現在におけるこどもの数は、前年に比べ9万人少ない1,693万人で、昭和57年から30年連続の減少となり、過去最低となりました。

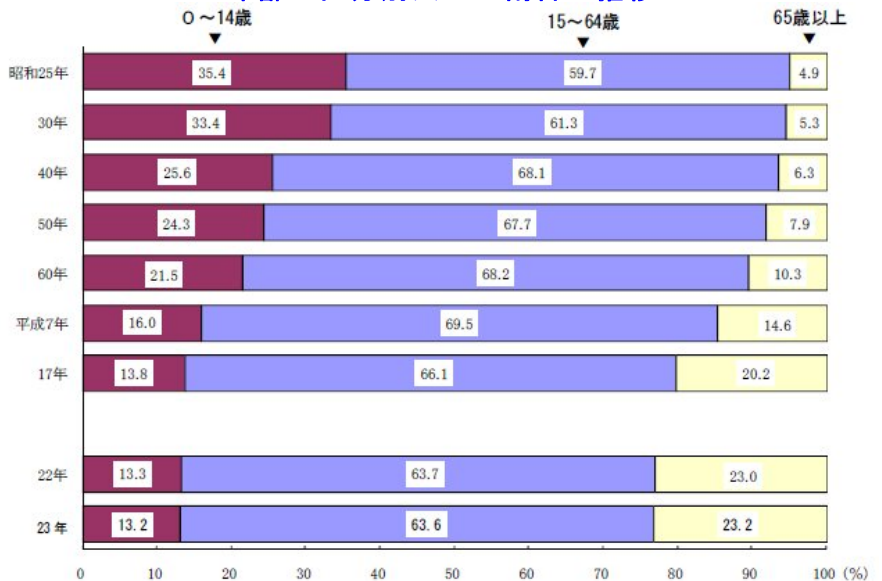
男女別では、男子が868万人、女子が825万人で、男子が女子より43万人多く、女子100人に対する男子の数（人口性比）は105.2となっています。

こどもの割合は、昭和25年には総人口の3分の1を超えていましたが、第1次ベビーブーム期（22年～24年）の後、出生児数の減少を反映して低下を続け、40年には総人口の約4分の1となりました。

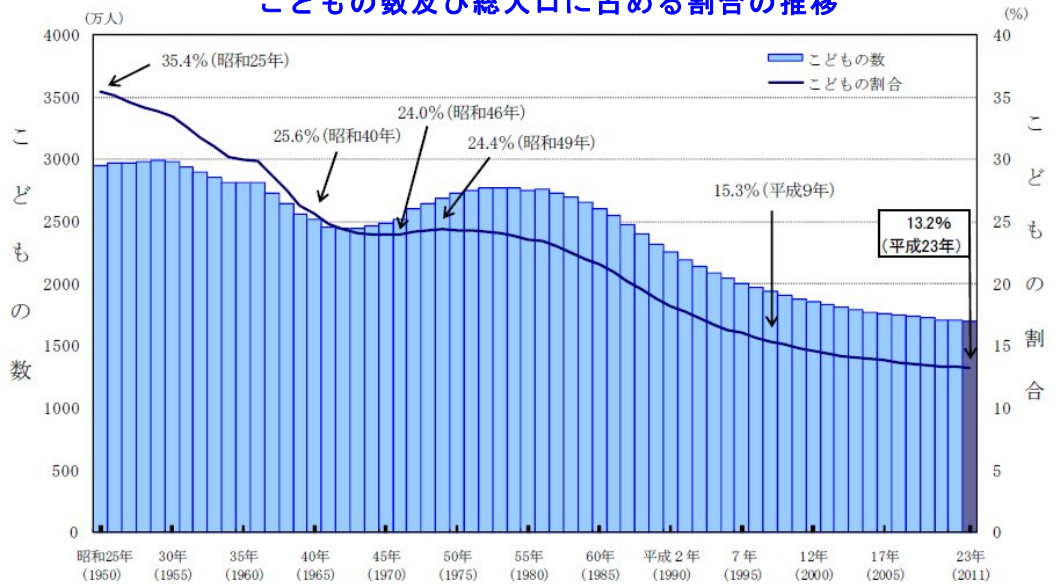
その後、昭和40年代後半には第2次ベビーブーム期（46年～49年）の出生児数の増加によってわずかに上昇したものの、50年から再び低下を続け、平成9年には65歳以上人口の割合（15.7%）を下回って

15.3%となり、23年は13.2%（前年比0.1ポイント低下）で過去最低となりました。なお、こどもの割合は、昭和50年から37年連続して低下しています。

年齢3区分別人口の割合の推移



こどもの数及び総人口に占める割合の推移



総務省統計局「我が国のこどもの数」（人口推計）より